

宝子の観会の観令

みどりの風

山口県自然観察指導員協議会 機関誌

山口自然観察会 No.117

2023年 1月 (新春号)



私たちは地球生命体の永遠なるいのちを願って活動しています

今後の会議の予定

第2回役員会	日 時	令和5年3月5日(日)	10時~下松市中央公民館
第3回役員会	日 時	令和5年6月4日(日)	10時~下松市中央公民館
第4回役員会	日 時	令和5年9月3日(日)	10時~下松市中央公民館

会員の皆さんへ 重要なお知らせ

「みどりの風春号(4月号)」から受信可能な方にはメール送信にします。メール送信不可の人や今まで通り郵送希望の会員の方は郵送にします。【大田会長アドレス：ota.red@kvision.ne.jp】

メール送信で「みどりの風」をご希望の方は、令和5年2月28日(火)までに、大田会長に直接お申込みください。特にお申し出のない会員は、今まで通り郵送にします。

併せまして、令和5年度の会費の納入も、お早めをお願いします。
複数年支払いが滞りますと、支払いが大変になります。
単年度納入を、心がけていただければと思います。

表紙の写真 カタクリの花

寂地山で数年観察できた珍しい紅白のカタクリ。以前、無頓着な登山者がカタクリ群落の中で食事中だったが、訳を話して花を確認したところ踏み潰され、白花の蕾が根元からポキリ。翌年は残念ながらその花を見つけることができなかったが、その翌年見事に花は復活して安堵した。しかし2日後、再度開花の写真を撮りに登ったところ跡形もなく消えていた。その場所の枯れ葉を除くと穴が開いていて、私はとても情けない気持ちになったことが忘れられないほどの、思い出の花なのである。

これをきっかけに私は、地元の有志を巻き込んで「寂地山カタクリの保全活動」を開始した。それから20年余りが過ぎ、今では私を含めて有志が高齢化して活動する人数も減少している。嘆く時間もない。若い後継者を育てる時期に来ている。

顧問 黒田義則 会員

黒田義則氏 環境大臣賞受賞

令和4年(2022年)10月2日(日)、秋晴れの下、周南市のホテルサンルート徳山で、黒田義則氏の環境大臣賞受賞を祝う会が開催されました。黒田氏を含め17名の参加者がありました。



黒田氏は、現役時代、東洋鋼板下松工業(現下松事業所)の敷地内に「環境の森」が造成されたのをきっかけに環境問題への関心を深めたそうです。

定年退職後、自然観察指導員の資格を取得するとともに山口県自然観察指導員協議会、島根県自然観察指導員連絡協議会に入会し、平成17年(2005年)から10年間、山口県の協議会の会長を務めました。

平成27年(2015年)からは顧問として本会を支えていただいています。その間、県内外で自然観察会を開いて自然保護への意識啓発に取り組んだ他、機関誌の編集長として、積極的に環境情報を発信しました。寂地山に生息するカタクリの保全活動にも尽力し、踏み荒らされていた山を手入れし、8年程で再生させました。その他、小五郎山のヤマシャクヤク、錦町のセツブンソウ、下関市蓋井島のヒゼンマユミの保全活動にも取り組んでいます。



会は、先ず、発起人の大田現会長が本会を開催する経緯を話しました。次に県自然保護課長の木本浩慈様から黒田氏の永年の地道な活動に対する功績を称えるお言葉をいただきました。さらに、柴田氏から花束贈呈がありました。黒田氏からは、環境問題に関心をもって以来、仕事をしながら観察会や荒れた山道、草花などを保全していく取り組みは大変だったという事、大臣賞は、本会を代表して頂くというお話をされました。

そして、会が始まりました。後半は、それぞれの参加者が黒田氏との思い出等を語り合い、最後に参加者を代表して岡氏が黒田氏に労いの言葉を述べました。皆さんにとっては、旧交を温めたり、協議会の将来を考えたりする良い機会となりました。



令和5年度活動計画

月	本部行事	1支部	2支部	3支部	4支部	5支部	6支部
1							
2	中旬セツブンソウ自生地観察会 (岩国市広瀬)	セツブンソウ自 生地観察会 (岩 国市広瀬) (本 部と共催)	セツブンソウ自 生地観察会 (岩 国市広瀬) (本 部と共催)				
3	・5(日)第2回役員会 (下松市中央 公民館) ・みどりの風118号発送			19(日)里山の動 物観察会			
4	・カタクリ自生地保全活動 (寂地 山) ・22(土)カタクリ定点観察会 (寂地) ・29(土)小五郎山登山道整備 (岩 国市)		・カタクリ自生 地保全活動 (寂 地山) ・29(金)カタ クリ定点観察会 (寂地) (本部 と共催)	9(日)エヒメ アヤマ観察会 (防府)			
5	・ヒゼンマユミ自生地保全活動		・小五郎山登山 道整備 (岩国 市) (本部と共 催)			ヒゼンマユミ自 生地保全活動	
6	・4(日)第3回役員会 (下松市中央 公民館) ・18(日)カタツムリ観察会 (周 南市) ・みどりの風119号発送			18(日)カタ ツムリ観察会 (周南市富田) (本部と共催)			
7	・切戸川観察会 (下松市)		・切戸川観察会 (下松市) (本 部と共催)				
8	・緑の少年隊交歓大会 (徳地青少 年自然の家)						
9	・3(日)第4回役員会 (下松市中央 公民館) ・セツブンソウ自生地観察会 (岩 国市広瀬) ・みどりの風120号発送	・セツブンソウ 自生地観察会 (岩国市広瀬) (本部と共催)	・セツブンソウ 自生地観察会 (岩国市広瀬) (本部と共催)				
10	・カタクリ自生地保全活動 (寂地 山) ・小五郎山登山道整備 (岩国市) ・ヒゼンマユミ自生地保全活動		・カタクリ自生 地保全活動 (寂 地山) ・小五郎山登山 道整備 (岩国 市) (本部と共 催)	初旬 体験研修 「動物園の動物 との関わりを通 して」		ヒゼンマユミ自 生地保全活動	
11	・令和5年度会計監査 ・令和6年度第1回役員会 ・令和6年度定時総会						
12							

令和5年度(2023年度) 定時総会に参加して

秋も深まった11月19日(土)～20日(日)の2日間、山口市の十種ヶ峰青少年自然の家で、令和5年度 定時総会が開催されました。総勢15名が参加しました。

総会では、昨年、会員の退会が相次いでいることが報告されました。また、会員数の減少に伴い、機関誌「みどりの風」の発行の取り扱いなども話し合われました。

総会後は、第6支部長の永井会員が十種ヶ峰の植物について、永年の観察活動を経て得た結果などを報告しました。「十種ヶ峰に希少植物が多い理由として、山頂付近が急峻で強風が発生するため大きな樹木が育たず、草本性の植物が生き残った」こと等を話しました。



最後に公演が行われ萩ジオパークの伊藤靖子氏が伊良尾山について、現状を報告していただきました。また、座学後は、現地に出かけました。2006年、萩市弥富と阿武町福賀を結ぶ広域農道の工事中に火山弾を含む幅約200m、高さ約50mの厚い火山弾の層が発見されました。現在では、地層の一部をコンクリートで覆わずに地層の様子が観察できる施設として、公開されています。現地では、参加者が伊藤氏に熱心に質問をしていました。

夕食後、ウッドパークに移動して懇親会を開催、今まで、どのように自然と関りあって来たのかをみんなで話し合いました。2日目は登山です。登山道の確認をしました。

中国地区五県の交流会については、当初、来春(4月)に予定されていましたが、諸般の事情を考慮して結局再来年の令和6年に山口県が担当することになりました。県内はもとより、多くの皆さんが参加されますように願っております。【報告：植田 高弘】



「周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター市民公開講座」に参加して

小林 玲子

10月1日(土)、周南市が市の連携事業で京都大学とコラボして行った公開講座に参加してきました。午前中は講演を聞き、午後から周南市の山林にある京都大学徳山試験地の方へ見学に行きました。

午前中にあった講演は、元京都大学フィールド科学教育研究センター講師：中島皇氏によるタイトル「SDGsの向こう側」。現在の学生たちの現状から、「保護」と「保全」の違い、徳山試験地での活動の様子、最近調査で解かってきた「ナラ枯れ」の実態など、写真や図表を交えながらの多岐にわたるお話でした。徳山試験地長：徳地直子教授による詳しい試験地の紹介もありました。私は特に「ナラ枯れ」のお話が大変興味深く、「ナラ枯れ」を起こす原因が、日本古来からいるとても小さな虫であることを知りびっくりしました。ちなみに「松枯れ」は、外国から入ってきた虫によるものだそうです。ナラ枯れ被害は、現在は東日本で多く見られ、幸いにも山口県では、まだ対策をしないでいくらい少ないとのことでした。

午後から行った徳山試験地は、R315線を北に上り、途中で右折して住宅街を抜け、うねうねと続く林道を上った丘陵地にありました。この試験地は、主に落葉広葉樹と常緑広葉樹で、天然林と植林された木の紹介や、木を育てるための工夫、苦労などを聴きました。特にヒノキ林が大変きれいで、建材として使うヒノキの樹皮の「檜皮」(ひわだ)やそれを剥ぐ職人(原皮師)の仕事など貴重なお話が聞けました。ちなみに、ヒノキは、皮を剥いても成長にあまり影響はないとのこと。樹皮をはがされたヒノキは、今も表面がとても赤く鮮やかで印象的でした。ヒノキだけでなく、各県から移植された杉の木や、メタセコイヤなどもありました。敷地には、きれいな水溜まりもあり、ここにはモリアオガエルがやって来るとのことです。

今回の参加者は支部3名を含め8名でした。実際に試験地を見学することができ、とても有意義な1日を過ごしました。



(説明を聞く参加者)



第3支部 今後の活動計画と参加者募集

□ 里山の動物観察会 令和5年3月19日(日) 場所: 山口市宮野周辺

博物館でアナグマなどの生態について説明を聞いたあと、野外で巣穴の観察や野生動物の痕跡を観てまわります。ご案内は、県立博物館の田中 浩先生から受けます。なお、この行事は博物館の行事ですが、支部行事の一つとして予定します。

申込み及び詳細は1か月前から、博物館 HP に掲載されます。参加者決定は先着順ではなく、抽選とのことです。不明な点は、田中先生 (携帯) または 090-7971-6843 増野 (090-8997-3368, kmashino@js4.soc-net.ne.jp) までお問い合わせください。

○集合場所: 山口博物館 ○日程: 9:30~13:00

アナグマの巣穴を のぞいてみよう!



巣穴の主 ニホンアナグマ

□ エヒメアヤメ観察会 (自生南限地・防府市西浦) 令和5年4月9日(日)

防府市の公開日が決まりましたら、再度、お知らせ致します。

□ かたつむり観察会 令和5年6月18日(日) (本部と共催)

社叢に生息する「ありがたいかたつむり」や最近観察機会の少ない大型のマイマイ類が期待できます。 場所: 周南市社叢めぐり (山崎八幡宮・河内神社ほか)

□ 体験研修「動物園の動物との関わりを通して」 令和5年10月初旬(日)

会場: 動物園で親しまれている野生動物との関わりを通じて、自然とのつきあい方学びます。入園料等多少の実費がかかります。詳細は近づいてからお知らせします。内容等変更の可能性あることをご承知おきください。

2023 年度北浦自然観察会(第 6 支部)行事計画

永井 要明

2022 年

11 月 13 日(日) 島根県益田市大神ヶ岳・赤谷山 懸崖からの紅葉

12 月 4 日(日) 美祿市別府花尾山 河原上から登る

2023 年

1 月 15 日(日) 広島県宮島弥山

2 月 26 日(日)、長門市津黄の竜宮の潮吹き、元の隅稲荷神社、長門トレイルの一部

3 月 19 日(日) 十種ヶ峰フクジュソウ・ミスミソウ、六日市のアズマイチゲ

4 月 23 日(日) 山口市阿東徳佐中東畑 ルイヨウボタン・ヤマシャクヤク・ハルニレ

5 月 6 日(土)、7 日(日)一泊二日 大分県豊後大野市傾山(1605m) 大展望、オンツツジ、アケボノツツジ 九折越コース。九折越小屋で一泊 寝袋必要

5 月 13 日(土)、14 日(日) 江舟岳ホンシャクナゲ観察会 明輪小 4・5・6 年生全員にパンフレットを配る。バスを手配。

6 月 13 日(日) 弟見山のササユリ・フジキ・サワシバ 屋敷林道より

7 月 16 日(日) 寂地山のオニノヤガラ 小川林道より

8 月 20 日(日) 島根県江津市千丈溪

9 月 大分県九重山 久住山 一泊二日 秋の花(法華院温泉宿泊)

10 月 14 日(土)、15 日(日)、16 日(月) 沖縄山原の自然、糸満喜屋武岬

環境やまぐち推進会議（山口県環境政策課）から協力をお願いします

山口県気候変動適応センターからお知らせがあります。

気候変動影響で、海の生態系が変化しつつあり、地域の漁業等に影響を及ぼしています。そのため、瀬戸内海・日本海の魚種の変化などの「海の変化」の情報をいち早く収集し、気候変動の影響を把握しながら、気候変動へ適応していく必要があります。そこで、海の市民である釣り人、ダイバー、漁業・水産関係者から釣った魚や見た魚の情報を収集し、各地域で気候変動に適応するアクションへ活用するための情報収集の仕組み化の実証が、環境省事業※により開始されましたので、御協力をお願いします。

※環境省「令和4年度 気候変動適応における広域アクションプラン策定事業中国四国地域業務」の一環で実施されています。詳細はチラシ又はHPをご覧ください。

<https://www.arpak.co.jp/event/item4980.html>

●求めている情報

瀬戸内海側・日本海側での「釣れた魚・水中写真」すべての情報を集めています。

その中でも、特に★の魚の情報を求めています！

- ★ 暖海性の藻類食害魚(アイゴ、イスズミ、ニザダイ、ブダイ など)、
- ★ 暖海性のハタ類(アラ、アオハタ、アカハタ、オオモンハタ、クエなど)
- ★ 中国四国地域ではあまり見たことがない！と思う魚種

●対象とする釣り場やダイビングエリア

瀬戸内海(岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛) および、日本海(鳥取、島根、山口)

●実施期間：令和4年10月28日(金)～令和5年1月末予定

●参加方法：ご自身の参加しやすい方法(AまたはB)でご投稿ください。

投稿方法の詳細は、添付のチラシ裏面をご確認ください。

釣った！見た！

魚の情報を ご提供ください！！



①求めている情報！

気候変動による瀬戸内海側、日本海側の海の変化を把握するため、みなさんの釣った魚や見た魚の情報、海の変化の気づきを集めています。

ダイバーさんからの
目撃情報もお待ちしております



瀬戸内海側・日本海側での「釣れた魚・水中写真」すべての情報を集めています。その中でも、特に★の魚の情報を求めています！

- ★ 暖海性の藻類食害魚(アイゴ、イスズミ、ニザダイ、ブダイなど)、
- ★ 暖海性のハタ類(アラ、アオハタ、アカハタ、オオモンハタ、クエなど)
- ★ 中国四国地域ではあまり見たことがない！と思う魚種

②対象とする釣り場やダイビングエリア

瀬戸内海(岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛)および、
日本海(鳥取、島根、山口)

③期間 令和4年10月28日(金)～令和5年1月末

参加方法

ご自身の参加しやすい方法(AまたはB)でご投稿ください！
投稿先等の詳細は裏面ご参照ください。

A 釣りペディアHPへ
アクセスし投稿

B メールで送付

(事務局を通じて、神奈川県立生命の星・
地球博物館収蔵資料データベースへ送付)

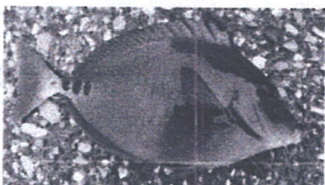
■取組の目的

- ・ 気候変動影響で、海の生態系が変化しつつあり、地域の養殖業、天然漁業の漁獲量などに影響を及ぼしています。そのため、瀬戸内海・日本海の魚種の変化などの「海の変化」の情報をいち早く収集し、気候変動の影響を把握しながら、気候変動へ適応していく必要があります。
- ・ そこで、海の市民である釣り人のみなさん、海のプロである漁業者、水産技師のみなさんから、リアルな海の情報を収集し、各地域で気候変動に適応するアクションへ活用できるような情報収集のための仕組みを実証するために行います。

※本事業は、環境省「令和4年度 気候変動適応における広域アクションプラン策定事業中国四国地域業務」の一環で実施しております。

主催：気候変動適応中国四国広域協議会 瀬戸内海・日本海地域産業分科会

■投稿方法: 下記 A または B の 2 通りです。投稿しやすい方法で実証にご参加ください。

	A 釣りペディア	B 神奈川県立生命の星・地球博物館 収蔵資料データベース (送付先: (株)地域計画建築研究所(アルパック))
投稿方法	【会員未登録の方】※登録無料 (1) 下記 URL・QR コードから釣りペディア HP にアクセスいただき、トップページの「会員登録」をクリックしてください。 (2) メールアドレスを記入いただき、届きました登録案内メールにしたがって、ニックネーム、パスワードの設定など登録手続きを完了させてください。 〇釣りペディア HP https://tsuripedia.com/  HP QR コード 【投稿手順】 (1) ログイン後、「ブログを書く」をクリックいただき、「新しい釣行を作成」から、「釣り場」、「釣行日、時間」を記入してください。 (2) 釣行日記が追加されたら、「釣果を追加」をクリックいただき、「魚種」、「釣果数」、「サイズ」、「ひと言(〇〇が釣れなくなった、季節外れの〇〇魚を見かける などの「海の変化の気づき」)」を記入し登録ください。 (3) 釣果報告に魚種が追加されれば、魚種名横の「写真ボタン」をクリックいただき、写真をアップロードしてください。 任意で、記事の編集欄に、タイトル等を記入いただき、ページ下の「投稿ボタン」をクリックいただき、投稿完了です。	(1) メールの件名は「中国四国適応業務 瀬戸内海・日本海 実証」、本文は(2)の内容を記載ください。 (2) 「①撮影者名」、「②釣り場・ダイビングエリア」、「③日時」、「④連絡先」、「⑤魚種」(同定できる方)、「⑥ひと言(〇〇が釣れなくなった、季節外れの〇〇魚を見かける などの「海の変化の気づき」)」を箇条書きに記載、「⑦魚類写真」を添付の上、下記メールアドレスに送付してください。 chushikoku-tekio@arpak.co.jp ※事務局((株)地域計画建築研究所)宛のアドレスとなっております。 情報をとりまとめの上、神奈川県立生命の星・地球博物館へお送りします。 〇(参考)神奈川県立生命の星・地球博物館 収蔵資料データベース HP(魚類写真) https://nh.kanagawa-museum.jp/kpmnh-collections/search?cls=dummy_media_attfs  HP QR コード
投稿の注意	添付いただく魚類写真は、種が判別できるよう、魚が障害物等で隠れず、できるだけ魚の全体が映るように撮っていただくと嬉しいです! 【写真 例示】  ○ ニザダイ(全体が映っている)  × アカハタ(一部、魚体が障害物で隠れている)	

■お問い合わせ先:

株式会社 地域計画建築研究所(アルパック) 担当: 駒、中川

〒541-0042 大阪市中央区今橋 3 丁目 1 番 7 号 日本生命今橋ビル

メール: chushikoku-tekio@arpak.co.jp TEL: (06) 6205-3600 (代表) FAX: (06) 6205-3601

■主催: 気候変動適応中国四国広域協議会 瀬戸内海・日本海の地域産業分科会

※「瀬戸内海・日本海の地域産業分科会」では、国、関連自治体、研究機関等が参画し、魚種変化等の情報の情報収集や海の気候変動影響に関する情報発信体制(プラットフォーム)の構築等を検討しています。

令和5年度 第1回役員会議事録

開催日時・場所

日時 令和4年11月6日(日) 10:20~12:20

場所 下松市：下松工業会館3階会議室

・出席 6名(蔵田、永井、松原、増野、小林、大田)

議題 ① 令和5年度定時総会

- ・議案書検討。概ね了承。一部訂正。
- ・総会案内に工夫を。会員の参加者が増えるように。

② 会員数減少について(令和4年度16名退会)

- ・フォローアップ研修の実施を。
- ・講習会実施の可否は検討事項。
- ・一般会員の希望・要望をつかむ。

③「みどりの風」編集会議

- ・原稿締め切り 12月10日

○その他

- ・機関誌は、経費と労力軽減のため、可能な会員にはメール送信とする。(4月から)
- ・外来種のオオフサモ、サカマキガイ等について情報交換。

《 編集後記 》

新春号をお届けします。今回の年末年始は、行動制限等がないとのこと。新型コロナが収束するのではないかと考えるには、まだ、時期尚早のようです。引き続き感染対策を徹底して年末年始を、気を付けてお過ごしください。

山口県担当の中国地区五県交流会は、令和6年になりました。十権ヶ峰や阿武火山群の自然を学ぶことは、たいへん重要な事だと思います。

諸般の事情で、新春号が大幅に遅れました事、心より、お詫び申し上げます。今年が皆様にとりまして、良き年になりますよう祈念します。(U)

山口県自然観察指導員協議会機関誌
＜みどりの風＞

■発行 山口県自然観察指導員協議会

会長 大田 和彦

〒744-0043 下松市東陽2-2-5

Tel(Fax)0833-46-0103

■機関誌編集長 植田 高弘

〒759-6603 下関市安岡町8-14-21

Tel(Fax)083-258-2706